

婦人科・乳腺科問診票

氏名： _____ 年齢： _____ 才 _____ 〒 _____ 住所 _____

●婦人科検診を受けられる方へ：（乳腺科のみの受診の方はこの項目のチェックは不要です。）

（ ）子宮頸がん検査のみ希望 （ ）子宮頸がん・体がん両方の検査希望

●婦人科・乳腺科外来におかかりの方、相談されたいことをお書きください。

[_____]

●月経関連相関についてお尋ねします。

結婚歴（なし・あり） 性交経験（なし・あり） 授乳歴（なし・母乳・混合・ミルク）

妊娠回数	出産回数	自然流産回数		人工中絶回数		異常分娩	
回	回	回	歳	回	歳	なし	あり

初経 _____ 才 閉経 _____ 才

最終月経： 月 日～ 月 日（ 日間）・不明

受診日は最終月経初日から _____ 日目

月経周期： _____ 日型（整・不整）

月経痛（なし・弱・中・強） → 以前とくらべ（改善・変化なし・悪化）

月経量（少・中・多） → 以前とくらべ（減少・変化なし・増加）

月経前症状：なし・あり（具体的に _____ ）

－日常生活制限：なし・あり（具体的に _____ ）

●既往歴・家族歴についてお尋ねします。

家族歴：なし・あり（子宮筋腫・卵巣のう腫・卵巣がん・子宮がん・乳がん・ _____ ）

既往歴：なし・あり（子宮筋腫・卵巣のう腫・卵巣がん・子宮がん・乳がん・ _____ ）

使用薬剤：なし・あり（薬剤名： _____ ） 内服・注射・点滴・外用含む

使用期間（ _____ 年・ _____ カ月）

●婦人科について、症状、検診歴	●乳腺科について、症状、検診歴
・症状：なし あり（不正出血・排卵期出血・おりもの かゆみ・下腹痛・腰痛・ _____ ）	・症状：なし あり（乳房痛・乳房のしこり・乳汁分泌物 乳輪のかゆみ・ _____ ）
・検診歴：なし・あり 検診異常 なし・あり（具体的に _____ ）	・検診歴：なし・あり 検診異常 なし・あり（具体的に _____ ）
※わかる範囲でお書きください。	※わかる範囲でお書きください。
<input type="checkbox"/> 子宮頸部細胞診 最終 _____ 年 _____ カ月前	<input type="checkbox"/> マンモグラフィー 最終 _____ 年 _____ カ月前
<input type="checkbox"/> 子宮体部細胞診 最終 _____ 年 _____ カ月前	<input type="checkbox"/> 乳腺超音波検査 最終 _____ 年 _____ カ月前
<input type="checkbox"/> 経膈超音波検査 最終 _____ 年 _____ カ月前	<input type="checkbox"/> 視触診 最終 _____ 年 _____ カ月前
<input type="checkbox"/> パピローウイルス検査 最終 _____ 年 _____ カ月前	・豊胸手術：なし・あり（ _____ ）
・その他 _____	・その他 _____

※裏面もご一読下さい。

婦人科検診受診の方へ

当院では婦人科がん検診として、内診（膣鏡診も含む）・子宮頸がん細胞診・子宮体がん細胞診・経膣超音波検査を行っております。

※子宮頸がんと体がんは全く別の部位のがんであるため、基本的に早期発見のためには2種類の検査が必要です。

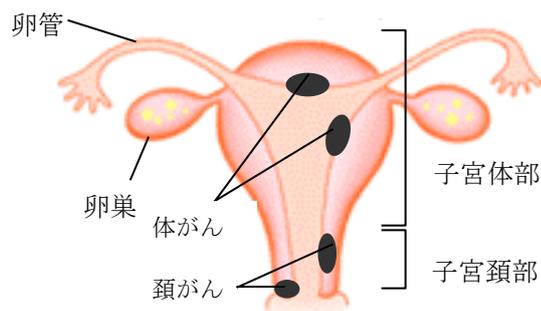
※契約により検査できる項目が決まっておりますので、担当者へご確認ください。

※契約にない項目はご希望でオプション(自己負担)としてお受けいただけますのでお申し出ください。

内診（膣鏡診含む）	膣鏡を膣内に挿入し、膣壁・外子宮口などの性状を視診します。また、膣内に指を挿入し、同時に下腹部を反対の手で押しながら行う触診法で、診察の基本となります。
子宮頸がん細胞診	めん棒等で子宮頸部（入り口）の表面をこすって細胞を取ります。
子宮体がん細胞診	専用の細いブラシを子宮内腔まで挿入し、子宮内膜の細胞をこすり採取します。
経膣超音波検査	専用の超音波プローブを膣から挿入し、子宮・卵巣の状態をモニター画面から観察する方法です。

子宮頸がんは初期には症状がほとんどなく、自覚症状があらわれる頃には病状が進行していることが少なくない病気です。20代の比較的若い方にもみられますので、性交経験があるすべての方にお勧めします。妊娠している方でも受けられる検査です。

子宮体がんについては、危険因子として閉経前後の年齢（45～60歳頃）・肥満・月経不順・不正出血・分娩経験がない・血縁にがんが多い、などが挙げられます。また、人によっては痛みをとまなう検査であることをご了承ください。子宮体がん検査を今回お受けにならない方で、今後不正出血などの症状があった場合には、なるべく早めに婦人科外来を受診することをお勧めします。



- ・頸がん検査は、月経中ですと細胞に血液が混じり適切な検体が取れないためお勧めしません。
- ・体がん検査は、月経中ですと内膜細胞が剥離し適切な検体が取れないため、月経でない時期にお受けください。また、妊娠の可能性のある方妊娠中の方も検査はできません。

※子宮体がんの検査結果につきましては、目的とする部位より十分に細胞が得られない場合、「判定不能」となることがあります。ご了承下さい。

乳がん検診受診の方へ

乳癌検診としては、視触診・マンモグラフィ（MMG）・乳腺超音波検査（MUS）を行っております。

※契約により検査できる項目が決まっておりますので、担当者へご確認ください。

※契約にない項目はご希望でオプション(自己負担)としてお受けいただけますのでお申し出ください。

視触診	乳房を目で見て（視診）触れて（触診）、乳房の変形やしこりの触知、皮膚の変化、乳頭からの分泌物の有無などを観察します。
マンモグラフィ	専用の装置で乳房を挟み撮影するレントゲン検査です。石灰化をとまなうしこりにならないようながんの発見も可能です。圧迫することにより乳腺と脂肪の重なりを減らし白黒のコントラスト（影）で乳房組織に異常がないかをみます。
乳腺超音波検査	乳房に超音波をあて、モニター画面からしこりの有無・性状を観察します。手で触れないようなしこりの発見も可能です。

マンモグラフィと乳腺超音波検査はそれぞれ性質の違う画像検査です。どちらがより優れているというものではありません。ただし、マンモグラフィでは、若い方や乳腺が発達している方は乳腺が白く写ってしまい組織が見えづらかったり、乳房を圧迫するため人によっては痛みをとまなったりする場合がありますので、超音波検査が適していることもあります。逆に、40代以上では石灰化やしこりにならないがんも増加してきますので、最低でも2年に1回はマンモグラフィをお勧めします。